

12月10日(日)、町中央公民館において「大崎町人権フェスタ2023」が開催されました。

開会行事では、町内小学5・6年生から募集した人権作文と、中学生から募集した人権標語の最優秀受賞者に対して表彰がおこなわれました。人権作文の部で表彰された大丸小学校5年東條華歩さんと中沖小学校6年中川結心さんが受賞作品を朗読し、作文の素晴らしい内容と、自分の意見を堂々と朗読する姿に、会場からは大きな拍手がわき起こりました。

また、LGBT・JAPAN九州支部の児島希望^{のぞみ}さんを講師に迎え、「多様な性を知るLGBTQ+とは」多様性を尊重しあう社会をめざして」と題した講演がおこなわれました。LGBT当事者である、ご自身の経験や実体験をもとにお話しいただき、受講者から「とても分かりやすく、大切なことを教えてもらったと思いました」「多様性を尊重する気持ちを今後とも持ち続けていきたいと強く思いました」など、受講して良かったという意見を多くいただきました。

人権フェスタについては、来年度以降も開催していく予定です。身近にある人権問題について一緒に考えてみませんか。

人権フェスタ2023

「誰か」のことじゃない。

人権作文

最優秀賞
(二点)

言葉のもつ力

大丸小学校 五年
東條 華歩

怖いものって、何だろう。わたしは、スマホが怖い。自由に人の悪口が書けて、投稿できる。それを「面白い」と感じたり、だれかがいじめられているところを動画に撮って晒しては、楽しんだりしている。もちろん、それだけではないのだが、良いことも悪いことも簡単にできてしまう、そんなスマホが、わたしは怖い。

ある日、スマホで動画を見ていると、こんな投稿があった。そこには、個人の名前が書かれていて、「うざい、きもい。」と、続けて書かれていた。その他にも、その動画に対するひはんや不満、注意など、たくさんさんの意見が書かれていた。「自分も注意した方がいいのかな。」と、ふくざつな気持ちのまま、コメントを読み進めていると、こんな投稿が目にとまった。

「この動画を投稿した人へ。こいうやってたくさんの人にいろいろ言われて、苦しいと思います。そして、後悔していると思います。反省して、動画を消せば、だれも何も言いません。」

「やさしいなあ。」わたしは、このコメントが投稿した人にとどいていたらいいのに、と心からそう思った。だけど、もし自分が同じ立場だったら、ひはんしかないコメントなんて、見るはずがない。そう考えると、どいていけないのも当然だ。不快な思いをする人がいることが分かっているはずなのに、それでもそんな動画やコメントが減っていかないのは、なぜなのだろう。

自分の思いを動画にして投稿するな、というわけではない。スマホを使うな、と言っているわけでもない。人をききつけられないよう、少し気を配る。そうすれば、悪い動画もコメントも少なくなるはずだし、不快な気もちになったり、きずついたりする人も少なくなるはずなのに。

言葉や行動に責任をもつと、しんちょうになる。わたしも、友だちとの会話の中で、

「これ言ったら、まずい」と心にブレーキをかけたことで、相手をききつけずに思いを伝えられた経験がある。逆に、何も考えずに言った一言で、トラブルになったこともある。

言葉の力は、すごい。一言でよるこびや感動を与えるだけでなく、命をうばうこともできる。「ちょっと、一言。」その悪口で、自ら命をたつてしまふ、という現実が、今なお起こっている。自分の発する一言一言には、重みがある、それを自覚しないとけない、それこそが、「自分の行動に責任をもつ」ということだと、わたしは思う。

スマホも、言葉も、かんたんに使えて便利なものだ。だからこそ、使い方には注意しないとけない。そして、悪いことには「悪い」と言える勇氣も大切だ。そんな友だちがいたら、すくってあげられる人になっていきたい。



LGBTQ+とは

尊重する社会を目指して

JAPAN九州支部

児島

希望